

令和3年度第1回長崎市総合教育会議 会議録

- 1 日 時 令和3年8月2日（月）10時00分～12時00分
- 2 場 所 第二応接室（市役所本館3階）
- 3 出席者 **【市長】**
田上市長
【教育委員会】
橋田教育長、中西委員、坂本委員、小原委員、桑原委員、松本委員
- 4 事務局 **【市長部局】**
企画財政部都市経営室長、同室主幹、同室係長
【教育委員会事務局】
教育総務部長、総務課長、同課課長補佐、同課総務係長
学校教育部長、同部学校教育課長、
- 5 次 第
 - (1) 開会
 - (2) 内容
 - ①意見交換事項
 - ア 長崎市教育大綱について
 - ②その他
 - (3) 閉会

6 議 事 以下のとおり

<p>事 務 局 (市長部局)</p>	<p>【10：00 開会】</p> <p>本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。</p> <p>ただいまから、令和3年度 第1回長崎市総合教育会議を開催いたします。</p> <p>はじめに、市長より挨拶をお願いします。</p>
<p>市 長</p>	<p>前回3月に本会議を開催させていただいたときに、教育大綱については教育の基本となるもので、しっかり作っていく必要があるが、コロナ禍の影響により大綱を策定する際の大事な要素となる、次期総合計画の策定期を令和3年度に1年ずらしたことから、教育大綱の策定についても同様に令和3年度に策定させていただくということでご了承いただきました。</p> <p>今回から、次の教育大綱の具体的な中身を議論していただきたいということですが、総合計画の策定にあたっていろいろな侃々諤々の議論をしましたが、これらの議論の中で、世界的にはコロナを経験し、地球環境の問題やSDGなどの動きが出ていること、また長崎のまちも様々な変化がでてきているというような話がありました。世界の動き、長崎の変化の両方を見ながら教育のこれからを定めていく必要があると考えています。大きな流れを掴みながら、同時にそれとつながっている小さなことにも目を配りつつということになると思いますが、グローバルな視点とローカルな視点の両方を加味しながら、グローバルな視点で様々な議論をこの中で展開していくことでいい教育大綱が出来上がっていくと思いますので、活発なご議論をお願いできればと思います。よろしく願いいたします。</p>
<p>事 務 局 (市長部局)</p>	<p>それでは、次第に沿って市長から進めさせていただきます。</p>
<p>市 長</p>	<p>それでは、早速、会議を進めたいと思います。</p> <p>次第の『2 (1) 意見交換事項 「ア 長崎市教育大綱について」、事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事 務 局 (市長部局)</p> <p>市 長</p>	<p>【事務局説明】</p> <p>内容の議論に入っていきたいと思いますが、まず、最初に総合計画との関係や教育振興基本計画との関係など、外形的なことについて、まず少しやりとりをして、その後、資料8にあります「長崎市教育大綱のめざすがた」、これは、前回のめざすがたを基本的に変えてないと、継続しよ</p>

	<p>うということで案が出ているのですが、これについても議論をしたいと思います。それから、最後に説明があった資料9、10あたりの中身について、どのような要素をいれたらよいかについてご意見をお伺いしたいと思います。次の素案を作っていくためにも、いろんな要素を出していただいた方がよいと思いますので、まず、そういう順番で進めていきたいと思いますが、そのような感じで進めさせていただいてよろしいでしょうか。</p> <p>では、最初に外形的な分で、総合計画あるいは、教育振興基本計画や、スケジュールを含めた全体的な部分について、何かご質問等がありましたら、よろしくお願いします。</p>
<p>市長</p>	<p>今回、五次総を作るにあたり、四次総にはなかったものを新たに設定しています。四次総では、世界都市、人間都市という永遠にそこにたどり着くということがない、いわゆる北極星のような目標を掲げて、どのくらい世界都市になったか、人間都市になったかということは言えても、これで終わりです、ゴールに到達しましたということがない目標を掲げて進めていました。そのなかでいくつかの要素を整理してゴールを設定し取り組んできましたが、今度の五次総については、世界都市、人間都市という北極星や、基本姿勢としての「つながりと創造」という軸は変えないものの、その下に、今回10年間でどこまでたどり着こうという地上の目標地点を新たに設定しました。10年後にこんな感じになりたいというイメージを言葉にして表現し、それを描いた後に、この10年間に何をどのようにしていくかを整理しました。北極星をめざす途中で地上の目標地点を描いて、そこで大事なキーワードを定義したというのが、四次総と五次総の大きな違いとなっています。</p> <p>これらの変化を踏まえた中で今回、教育大綱をどうするかについて検討していくことになると思います。</p> <p>資料の4でお示ししているように総合計画で世界都市・人間都市という北極星の部分、まちづくりの基本姿勢といった部分は変えないという中で、教育大綱も5年10年の間で、めざす部分が大きく変わるというわけではなくて、むしろ継続することによって大事な意味があるのでないか、その中で新しい要素、時代の変化というものを取り入れていこうという考え方でおそらく、このめざすすがたというのが、これまでと基本的には変わらないという形で整理されているということだと思います。事務局そういう考え方でいいですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>今、市長からコメントを少しいただいたところですが、私から補足説明</p>

<p>(市長部局)</p>	<p>してよろしいでしょうか。</p> <p>参考資料の3をご覧ください。これは長崎市の五次総の基本構想ということで、これについては、議決をして確定をした事項ということになります。その中で3ページをお開きください。3ページの「めざす都市像とまちづくりの基本姿勢」というところで、先ほど、市長からコメントいただいた世界都市、人間都市というところと、(2)にまちづくりの基本姿勢という記載がございます。このめざす都市像、世界都市、人間都市という部分についてどうするのかということについて、この総合計画は市民の方、審議会の先生たち、あるいは議会と相当な議論をして作り上げてきました。このめざす都市像の世界都市、人間都市というのを何故、今変えないのかということ、12行目から書いていますが、『これまでの10年間、私たちがめざしてきた「世界都市」「人間都市」は、市民ニーズや社会の変化に応じ、より良い状態を求めて進化しつづける都市の姿であり、私たちが理想を持って進みつづけるための目印であって、それをめざす道のりは常に道半ばにあります。』というところ、それから、16行目から『また、折しも、新型コロナウイルスの流行をきっかけに、世界の人々の価値観が改めて見直されている』と、また具体的に18行目から書いていますが、『幸福に生きるために大事なことは何か』という問いから導かれる、より本質的な価値が求められている』といった価値観の変容が生まれていますよと、そうした中でも、この世界都市、人間都市というのは、22行目ぐらいから書いているんですけども、10年前と比較しても、更に輝きを増しているということで、これについては、今回、四次総から五次総に変わっても、ここは変わらず、「個性輝く世界都市」「希望あふれる人間都市」をめざす都市像として掲げていくという、そういった整理をしています。</p> <p>それから(2)のまちづくりの基本姿勢、これも非常に大事なところなんですけれども、32行目あたりから「人口減少や少子化、高齢化が進む中で直面する様々な課題に対し、市民等がつながりを深め、各々の強みを活かして協働していくことは大切なことであり、さらに、世界中とつながって、新たな価値や仕組みを創造していこうとする姿勢の重要性は、これからますます高まっていく」ということで、このまちづくりの基本姿勢「つながりと創造で新しい長崎へ」という、こういった姿勢も変わらない基本姿勢として、四次総から五次総になっても、しっかりと変わらぬ姿勢でやっていくということで整理をしています。市長から説明があっためざす2030年の姿は4ページ目から記載されていますが、五次総で新たに掲げております。これは、今まで、「世界都市」「人間都市」という目標が遠すぎる目標で、審議会において、この10年間でどこまで目指せばいいのか分かり</p>
---------------	--

にくいというようなご意見、ご議論をいただく中で、10年後どういった姿を目指すのかということに記載してございます。項目でいえば、4ページの12行目から「みんなにつながって、暮らしやすさをつくり続けています」、それから5ページの15行目から「産業がもたらす活力と技術の進歩を取り入れ、生活の質が高まっています。」、それから6ページの30行目「交流の歴史に培われた多様な魅力で人を惹きつけています」、7ページの20行目から「平和な世界、持続可能な世界の実現に貢献しています」ということで、めざす2030年の姿を具体的には書いては無いんですけども、10年後こうありたいなという都市の姿を皆で掲げたという点が四次総と五次総の大きな違いとなっております。そういった議論の中で、資料に戻っていただいて、資料の7になりますけれども、上の基本構想のところ、ここが先ほど文章で連ねたところを、体系化してまとめたところで、将来の都市像、まちづくりの基本姿勢、それからめざす2030年の姿、こういった都市をつくっていきたいんだという計画の根幹となるものをお示ししています。そして、こういったまち、都市像を実現するためにどういった方向性でやっていけばいいのかということもAからHの8つのまちづくりの方針として体系づけて書いているのがこの部分になります。この資料7で整理させていただいているのが、左側がまちづくりの計画である五次総をお示ししており、その中から、こういったまちづくりのためにどういった人をつくっていけばいいのかという人づくりに関するものを抜き出したのが真ん中の部分になります。この抜き出した部分については、現在も審議会の皆さんと議論半ばの基本計画の部分で、例えば、子育て支援の充実とか、下の※4の「確かな学力の向上、健やかな心と体の育成」など、様々ありますけれども、それをグルーピングして、体系的に並べたものが、右側の、健康、学習、多様性とそれぞれ並べている部分になります。次の資料8にあっていただいて、そのグルーピングをした結果から、この右側の、第2期の教育大綱のめざすすがたの骨組み、柱を考えたわけですが、新しい言葉を足したり、引いたりして、この第2期は新しい柱にしてはどうかということも検討したところではあるのですが、種々検討した結果、やはり第一期で掲げているめざすすがたの柱というのは、大きいまとまりとしては、今、やろうとしていることをまとめた言葉になっているということで、あえて変えておりません。そのような検討の結果、我々、事務局としては、この第2期の教育大綱のめざすすがたの柱についても、第一期と変わらず、こういった柱でいいのではないかといた案をご提案しています。そして、その下に、SDGs、持続可能な開発目標について記載していますが、これについては、五次総もSDGsの実

	<p>現と一緒にめざしていくこととしており、世界が目指している17のゴールというのは、グローバルな人材を育てる意味でも、非常に重要な視点だと思っておりますので、教育大綱も同じく、こういった視点を持ちながら取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>次に、資料の5をご覧ください。これが皆様と一緒に作らせていただいた第一期の教育大綱になりますが、3ページの基本理念、ひとづくりの基本姿勢は、さきほど、まちづくりについてご説明したとおり、そのままではないのかと考えております。それから4ページから6ページの5つの柱の部分については、先ほどご説明したとおり、今度第二期でめざそうとする様々な要素を鑑みても、言葉としては変えなくてもいいのではないのかと思っておりますが、委員の先生方のご意見等をいただいて、こういった要素とかこういった視点も必要ではないかといったことがあれば、そこも含めて検討していきたいと考えています。さらに、この柱の下に、文章で書いてある部分については、やはり、今の時勢とか、求められる視点を踏まえながら、変えていく必要があるかと思っております。資料の9の左側のところに、今の、第1期の教育大綱の振り返り、現状と課題ですね、それから右側に今後の方向性というところで書いておりますけれども、基本的には資料9をご覧ください、こういった今後の方向性、あるいは振り返りでも結構ですが、こういった視点が足りなくて、今後の方向性についてはこういったところも望まれる、あるいは、こういった柱も必要など、そういったご意見もいただきたいと思っております。最後に、資料9の裏面の下の左側に書いていますが、人口減少・少子化・高齢化、Society5.0、コロナウイルス感染症とか、被爆者がいなくなる時代など我々が整理している時代の流れです。そして、右側に生活の質の向上であったり、変化に対応する力、誰一人取り残さないといった視点が特に求められる視点ではないかということで整理しておりますので、こういった視点が足りないよとか、こういった視点も必要ではないかということがあればご意見いただきたいと思っております。長くなりましたけれども、補足の説明は以上になります。</p>
市 長	<p>今、事務局から詳しく説明していただきました。</p> <p>先ほど、3つにわけてお話ししようという話をしましたが、最初の総合計画との関係等の外形の部分と、それから資料5の教育大綱の柱の部分は変えないでという案を事務局はもっているけれど、どうかという二つ目の議論、それから3つ目の資料9、10を使った中身の話と分けたときに、一つ目の話と二つ目の話はつながっているところがあると思っております。</p>

	<p>で、一緒にいろんなご意見をいただきたいと思います。ここでもちろん、賛成、反対ですということを確認させていただく必要もありませんので、事務局から説明のあった考え方等について、こんな考え方でいいんじゃないかとか、こんな考え方もあるよとか、色んな自由なご意見をいただければと思います。総合計画等との関係、それから、そこから見出された教育大綱の大枠については、この形で前回の第一期の分から第二期の分へも継続させた方がいいのではないかといたるところにまずご意見があったらお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>第5次総合計画は2030年までということで奇しくもSDGsのゴールと同じ年になっているんですけど、それはいいとして、市長さんが、世界都市と人間都市が北極星だとおっしゃっていましたので、北極星にたどり着くためには、北斗七星とカシオペア座とかありますよね。ですから、私は五つの柱は第一期と変えなくてもよい、そうクルクル変えるものではないと思っているんですけど。5つのめざすがたが北極星の周りにあるのではないのかなと思います。レイアウトの問題だと思うんですけど、北極星にたどり着くためには、5つのめざすがたが、北極星の周りに配置されていて、これはたてに並んでいますから、これで北極星をめざしていこうよということで考えていいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>企業人として、意見を申し上げたいのですが、今まで、私たちがずっと考えていた資本主義というのは、利潤資本主義というものだったが、少しばかり人間が賢くなってきたみたいで、最近、倫理資本主義という言葉が出てきている。よくメディア等ではいわれるが、60人程度の超富裕の方が、全世界人口の40億近くの人々の資本と同じような富を持っている。そういうことを人類そのものが知らずに暮らしていくんだらうかという、ある意味反省から、SDGs的なものが自然発生的に必要なものとしてでてきたのではないかという議論があります。そういう意味では、長崎市がめざす都市像の方向性として、幸福に生きるために大事なことは何かという問いから導き出された「人間都市」「世界都市」というのは、全体的な方向性として非常に、長崎だけではなくて、人類にとって素晴らしい方向性の本質をついているのではないかという気がいたしました。</p>
<p>委員</p>	<p>めざすがたについては、やはり、他の委員さんもおっしゃるように、大きなものを変えるのは難しいし、また、せつかく、市民にも理解されたり、認知されたり、意識されたりしているところを、こんな大きな目標を</p>

	<p>変える必要はないと思います。ただ、一市民として、これを見たときに、きっと先々細かく設定していかれるんだろうなとは思いますが、例えば60歳を過ぎた私が、このめざすすがたのどこの部分に、どうヒットしているのかなとか、どの部分で、私は何をすればいいのかなというのは少しわかりづらいかなどは思います。</p>
<p>市長</p>	<p>教育大綱のめざすすがたを共有することの大切さということですね。重要な御指摘だと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>皆さまからご意見があったとおり、めざすすがたというのはなかなか簡単に変わるものではないし、普遍的なことが書かれていると思いますので、この五つについては、そのとおりだと思います。ただ少し気になるのは、一つは、あらゆる世代に向けた教育大綱になっているのかということです。仕方がないことかもしれませんが、五次総におけるひとつづくりの要素ということになると、基本的に若者世代に対するものがメインになっているということは否めないのもう少し上の世代に対してというところをもう少し意識した方がよいのではないかと思います。</p> <p>また、時代の流れにもありますけれども、今、情報化が、コロナのおかげでというのもおかしいですが、急速に進展していているところもあるので、それに対応できる人材の育成などが非常に重要だと思います。そこは、若年層はもちろん、あらゆる世代に対して、発信をしていかなければならなくて、特に私でもついていけないようなところがいっぱいあるので、むしろその点については、若者の方がついていっているところもあったりするのかなと思います。なので、中高年向けには、情報力というのでしょうか、情報を把握する力、情報を発信する力というところを育てていくというところがとても重要になってくるのかなと思うので、そういったところは、めざすすがたには入れる必要はないのかもしれませんが、すこし大きな柱として、時代の流れに沿った形で入れてもいいのかなというふうに思いました。</p>
<p>市長</p>	<p>今までの話を、これから中身の話でさせていただければと思いますので、よろしくお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>私も皆さんがおっしゃったとおり、めざすすがたの項目については、変えなくて大丈夫かなと思います。皆さんが当事者意識をもって、ひとつづくり、まちづくりはしていかなければならないので、そこをどのように発信</p>

市長	<p>していくかということは大事になってくるのではないかと思います。これから中身の話でという話が市長からありましたので、その中で詳しく議論ができたと思います。</p> <p>今、皆さんからいろいろご意見をいただく中では、基本的には、これまで進めてきた方向性をきちんと確認して、状況の変化をうけて、更に前に進むためにはどうしたらいいかということを経済大綱に盛り込んではどうかというような、基本的な方向性のご意見が多かったと思いますが、そういう方向性でよろしいでしょうか。</p> <p>では、ここまで大きな流れを確認できたということで、中身の話に入っていきたいと思います。特に資料9、10等を参考にしながら、自由にご意見を、ブレインストーミング的に、今考えておられることや思いついたことでも結構ですので、材料を出していただき、今後の教育大綱素案につなげていくときのヒントをいただければと思いますので、ご自由にいろんなご意見をいただければと思います。</p>
委員	<p>資料9の1ページですけれども、「1 心身ともに充実し、自ら学び、考え、挑戦するひと」の、一番上の学力のところ、「学力調査の結果においては、目標値を下回っているものもある」とありますが、学力については、小さな数字の差で特に問題はないと思うんですが、ただ、全国学力調査でも、PISAの到達度調査でも、理数リテラシーの調査でも、共通して学習意欲が低いというのが、日本の子ども達の特徴なので、キャリア教育と繋がっているかもしれませんが、学習意欲を高めるような学習の意義であるとか授業改善に努めるとか、今後の方向性にうたわれるといいのかなと思います。</p> <p>同じところの、5つ目の少子化・高齢化のところ、生涯学習・スポーツ、芸術文化等を通じた仲間づくりや地域づくりなどの更なる広がりが望まれるということですが、確かに今の子ども達によく言われることは、3間（ま）が足りない、時間、仲間、空間（場所）ですが、みんなが同じ時間に、同じ場所に、同じ仲間がいないので、結局は足りないということになっているんだと思います。そういうような3間の構築については、結局、子ども達がいなくてできないことですが、今、文科省、厚生労働省で放課後子ども総合プランということを進められている中で、その辺の取組みが長崎は少し弱いと思います。</p>
委員	<p>今の「1 心身ともに充実し、自ら学び、考え、挑戦するひと」というと</p>

		<p>ころの方向性として、「学力向上や健やかな心と体の育成」を掲げられていますので、当然含まれているとは思いますが、新型コロナウイルスの関係で、私も幼児クラブの子ども達とも関わっていましたので感じているのですが、自分の体は自分で守ろうという意識に特化した項目があるといひかなと思ひました。</p>
市	長	<p>コロナ禍を受けて、何がどう変わるのかというところで、具体的な施策をとということですね。</p>
委	員	<p>同じ項目に入るのかなと思ひのですが、今、教職員の働き方改革を含め、学校体育、学校スポーツ、部活動というのが、大きく変わろうとしている時かなと思ひます。そこから生涯学習やスポーツというところにつながっていかねばならないのではないかなと思ひます。現実、活動的な子どもと非活動的な子どもで体力の二極化とかありますけれども、結論、体力は低下してきているのかなと思ひます。</p> <p>幼少時代に体力が低下するということは、要は年を取ってからでも、体力はそのまま、もっと低下していくことになるので、ここは一つ、知恵を出し合って、学校体育、学校スポーツだけではできないことではないかなと思ひますので、是非、学力向上とともに、もう一本体力向上というの、今だからこそ大事かなと思ひました。以上です。</p>
市	長	<p>そういった意識の中から少し弱くなっている部分、気づきの部分などがあれば、どんどん出していただけると材料が増えて、全体が把握できるようになると思ひますので、だんだんご意見を出していただければと思ひます。</p>
委	員	<p>5つのめざすがたのすべてに関わってくるのではないかなと思ひんですが、このコロナ禍で、Webを使ったコミュニケーションというのが、急速に図られるようになったということがあると思ひます。これまで、国際交流にしても、対面ということがメインだったと思ひますし、それがあべき姿と思ひますけれども、そうじゃないやり方もできるんだということが皆、分かってきたというところもあります。そのWebを使った形での交流、それは国際交流もそうだし、子ども同士、大人同士もそうだと思ひますけれども、それらを積極的に図っていくというの、一つの手段としていいんじゃないかなと思ひます。ただ、先ほど申し上げましたけれども、その前提としては、それを使いこなせるようにならないと</p>

市 長	<p>いけないということがありますので、その力も育むことも大事なのかなと思います。</p> <p>大事なお意見ですね。先ほどのお話があったように、若い人たちが上手に使いこなして、先生たちの方が四苦八苦している部分もあるかと思えます。</p>
委 員	<p>それに関連して、体力の低下については、体育だけではどうしても少ないんですよね。週に何時間しかない。そうすると、どうしても家庭や地域での取組みが大事になってきます。ただそうはいつでも何をしたらいいかわからないかたもいると思うので、例えばWebで、親子なんとか体操といったようなものを配信して、家にいても、楽しみながら体力向上ができるのではないかと思います。あまりにも細かすぎることで申し訳ない。</p>
市 長	<p>そういった意見をどんどんいただければと思います。</p>
委 員	<p>資料9の今後の方向性のところが、率直に言って寂しいなと思います。例えば、一人一台のパソコンが準備できたりなど新しい動きや変化がこの5年10年の間にあると思います。</p> <p>また、一番上の「学力向上や健やかな心と体の育成に向け基礎的な取組みの更なる充実を図る」というのは、今まで皆さんから言われたことが含まれる表現となっていますが、まさにキーワードのところや、特に求められる視点で、変化に対応する力であったりとか、誰一人取り残さないといったことであったりとか、新しい時代を意識した書きぶりを変えて、すこし膨らませて書いてもいいのかなという気がしています。Society5.0のところも、情報活用能力のことだけが書かれている印象も受けるので、ここを少し膨らませた方がいいと感じています。</p>
委 員	<p>質問ですが、貧困の問題が最近よく言われていますが、そういう環境の整備については、この中のどこに入っているのですか。</p>
事 務 局 (市長部局)	<p>めざすがたでいうと、「1 心身ともに充実し、自ら学び、考え、挑戦するひと」、この中に分類されるのかなと思います。</p> <p>資料の5 前回の教育大綱の4ページの1の(1)の「主体的に学ぼうとする学習意欲を身に付けたひとを育てます」、(2)の「心身ともに健やかなひとを育てます」という部分を下支えするという考え方になると思いま</p>

	<p>す。また、3 ページのひとづくりの基本姿勢のところ、(1)になりますが、「学校・家庭・地域・行政等の様々な主体同士が、教育・福祉・子育て・平和等のあらゆる分野において、つながり合って、多くの市民が関わることで、長崎のまち全体が一体となったひとづくりに努めます。」、また、(2)「つながりによって創造される力や発想を活かし、健やかな育ちや学びを阻害する要因を解消するとともに、」という部分がありますが、これは地域でひとづくりを行っていくということで、こういった部分に含まれるということになると考えています。</p>
<p>委 員</p>	<p>資料9の今後の方向性の中にそういったことを具体的な形として、特に裏面の求められる視点のところ「誰一人取り残さない」という言葉があるので、これに教育を受ける環境まで含まれるかということがはっきりしないのと、今後の方向性のどこかにこういうことが入ってきたらいいのかなと感じた次第です。</p>
<p>市 長</p>	<p>今の委員からの貧困の問題に関するご指摘は大変重要な指摘で、やはり今説明があったような読み取り方は普通に考えれば難しいと思います。そのあたりが教育大綱の中でどういう位置付けになるのか、めざすすがたどどのようにつながってくるのか、その辺の位置付けの説明はありませんか。</p>
<p>事 務 局 (市長部局)</p>	<p>今のご議論、私も非常に大事だと思います。資料の10をご覧ください。先ほど、事務局から説明をさせていただいた「学力の向上、健やかな心と体の育成」のベースとなる部分に子ども達の貧困ももちろん関連があると思います。また、軸としての考え方になりますが、「2 多様性を認めあい、思いやりの心を持ち、支え合って生きるひと」の一番下、全ての人の多様性、人権を尊重するような市民意識の向上と学習の機会の確保 ここが、全ての人がいろんな分野で活躍できるような学習機会を確保していくことによって、そのことが右側の社会の対等な構成員として参画できるような、そういったことにつなげていく、そういった部分があると思っています。つまり、それが誰一人取り残さないというところで、取組みとか市民意識の向上とか進めていくということが重要と考えていますので、整理をさせていただきたいと思います。</p>
<p>市 長</p>	<p>資料の6の右側の上の方の「学びのセーフティネットの構築」の中に、教育費負担軽減など学習機会の確保についての記載がありますが、これが</p>

<p>事務局 (市長部局)</p>	<p>先ほどの議論と繋がるとは思います、これとの関係はどのようになっていますか。</p> <p>資料の7と併せて見ていただきたいと思いますが、先ほどお話いただいた子どもの貧困のところ、※の2をつけているF4のところ、総合計画の中では、子どもやその家庭の生活実態の把握と貧困対策の総合的な推進といったところで記載しています。そこが教育大綱に集約していくと、健康に入っていくと考えています。</p> <p>資料6は、国の教育振興基本計画で、左側の社会状況の変化、教育をめぐる状況変化に対して、右側に記載の方針で取組みを進めたいということになります、それについては、総合計画の中で位置付けをしていると私たちは捉えていたところです。</p>
<p>市長</p>	<p>ご指摘いただいた意見は非常に重要な意見なので、教育大綱の中でも読み取れるようにしていく方向で整理するというところでよいでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>2の「多様性を認め合い、思いやりの心を持ち、支えあって生きるひと」という部分ですが、一番重要なポイントになるのは、人権意識ではないかと思えます。人権意識さえあれば、全部クリアできるような気がします。そういったキーワードを入れていただくとよいと思えます。</p>
<p>市長</p>	<p>私も意見を言いたい部分があるんですが、自立と協働についてはこの10年間で大きな変化があった部分だと思っています。どういうことかという、実は全員が社会の構成員で、皆、社会をよくしていく当事者なんですけれども、それまでの時代というのは、どうも誰かがよくしてくれると思っている部分がありました。特に行政がする仕事には、私たちはお客さんだと思っている部分が結構あって、職員時代からいろんな地域の人たちとお話をするとき、自治体活動なんかでも、本当は市役所がすべきところを自分たちがしてやっているんだという雰囲気があって、結構大きなズレだと思っていました。全員が当事者として、できることをできるだけでも参加していくという当事者意識というのはすごく基本であって、それがこの10年間ぐらいに進んできたと思っています。教育に関して、何十年か前みたいに、家庭の教育力、地域の教育力、学校の教育力をあわせて、それぞれ違う教育力を持っているので、力を合わせてやりましょうという形でなくて、地域が教育に関わるのが非常に限られていた時期もあったりしましたが、今は積極的に学校の運営にも参加したりとか、その</p>

辺も変わってきているということもあります。本当は全員がプレイヤーとして、だんだん関わっていくとき、当事者意識を持つときが一番、社会がよくなる力が強いんだと思います。そういう意味では当事者意識を育てる、当事者意識を持つ人たちを育てるということは、ものすごく重要なことで、今の時代だからということを超えて、未来永劫そうあってほしいという大きな要素であるということが一つ。もう一つは協働する、力を合わせるということ、これもすごく大事で、14年前に市長に就任してすぐ、大学の学長さんたちに皆集まっていたいて、大学はまちにとって大事な存在で、若い人たちがそこにいるというだけではなくて、いろんな新しい価値を生んでいくすごく大きな要素、特に長崎にとっては、大学の存在はすごく大きいので、何か一緒にできることがあるはずだから話し合いましたよという話をしたら、その時は、なんで集められたのかというところからはじまったんですけど、今はその会議は必要ないくらい普通にいろんな分野で協力をしているんですね。それはもう大きな変化で、それまでは縦割りバラバラにそれぞれ何をやっているかわからないといったなかでやっていたのが、今はコロナにしてもそうですし、産業にしてもそうですが、いろんな分野で一緒にやっている訳です。それは別に大学に限らずいろんなところでそういう形が当たり前になっているというのが、すごく大きな進歩だと思っていて、教育も、当事者として参加する人たち、力を合わせることができる人たちを、再創造していくことは、社会にとっても、まちにとっても社会全体にとってもすごく大きな要素で、それは世界中で取り組むべきテーマであると思うんですけども、その部分というのは、今の資料でいうと、最後の5の「地域を支え未来へつなぐひと」の一番下のところに、「一人でも多くの市民が当事者意識を持ち、日常生活における環境に配慮した行動（エコライフ）につなげていくための取組みを進める。」ということで環境の部分として取り上げられているんですけど、それは基本の部分、環境に限らず、是非打ち出してほしいと思っています。具体的にいうと、子ども達がボランティア活動を行う中で、自分が何かしたことに「ありがとう」といってもらうことで、自分が役に立つんだということ意識してもらうことを市内全域でやっていくことで、子ども達も社会に関わっているんだという、自分も力になれるという自信になったりすることがあり得ると思うし、いろいろできるところがあるんじゃないかなと思うんです。だから、長崎が好きですというだけではなくて、自分もよくする人になりたいという気持ちを、教育大綱の中でも明確に示すということも大事なことかなと思ったりしています。

委員	<p>「3 長崎を愛する心を持ち、世界に貢献するひと」のところで、今後の方向性に「長崎を愛する心（シビックプライド）を高め、」とありますが、もちろん大事なんですけど、心だけでは現実的には限界がありはしないかと思います。</p> <p>先日、長崎新聞に長崎出身の方で現在は関東圏で勤め結婚した方の記事がありましたが、長崎に帰ってきたい気持ちはあるけれども、働く環境や育児のことを考えるとなかなか帰りにくいといったことを仰っていました。事実、そういった部分もあると思います。教育大綱でうたうことではないとは思いますが、そういう育児とか、働く環境をどこかで保証しないと、子どもたちに長崎を愛する心を要求するばかりではどうかと思います。</p>
市長	<p>その部分も非常に大事なことだと思います。人口減少のこともあるんですが、若い人たちが働き、住みやすく、遊び楽しむという部分が長崎市は少し弱いところがあるので、様々な取り組みを行っているところです。</p> <p>また、自分を成長させてくれる場所、挑戦できるまちということにも取り組みを進めているところです。</p> <p>そういうことが揃っていくと、長崎で仕事をつくったり、家庭をつくったりしながら、人生を送っていく、歳をとっていくということもすごく魅力的だと感じる人もいるので、そこは、今、手を入れないといけない部分で、すごく大事な部分だと思います。</p> <p>同時にシビックプライドについて、高校生になると人生の選択を自分の能力や、大学がどこにあるとか、学部は何がという様々なことで選んでいくことになります。外に出たときに、まちについて語れるくらいの種を植えておく、自分のまちを知るといことは中学校ぐらいまでにしないといけないのではないかと思います</p>
委員	<p>今、市長が言われた幼いころから長崎を知るといことは大事だと思います。逆にいったら、子ども達は、長崎市しか知らないという生活をしているのかなというふうに思います。いつも悩むのは、長崎を知り、長崎を愛したから、長崎に残らないといけないのかということ。大学にしても学部がないというときは仕方ないし、例えば帰ってきて、勤めたい、例えば教員になりたいという思いがあっても、倍率が高くて、長崎で教員になれば、違う県でなるしかないという、生きていくための選択があると思います。そういう点では私はいつも、100%長崎を愛して、長崎で頑張ろうというのは、持ちづらいというか、そういう思いをもっています。</p>

	<p>二つ目は、資料の2の下から3行目に、「生涯学習を含めたあらゆる世代に向けた」ということをわざわざ書いていることはいいなと思います。人生100年であるのなら、学校教育の手が届くところは、20歳くらいまで、人生の5分の1かなと思うんです。あとの5分の4、80年は生涯学習の部分でやっていかなければならないと思うので、学校は施設もあり、お金も使い、人も置き、学力もよくしようとしてやっているのもう少し、一方の生涯学習の部分をやっていく必要があるのではないかと思います。</p>
市 長	<p>生涯教育は、公民館だったり、何とかセンターだったりというイメージがあるんですけども、本当にそうなのかなと思います。先ほど委員さんから資本主義を疑ってみる、原点に戻って見るという話がありましたけど、生涯教育というのも、原点に戻って見る必要がある感じがします。実際に、日本では勉強するのは、学校までだという風潮が長らく続いていますけど、本当はそうではなくて、職業教育も含めて、そういった社会システムがきちんと整っているところが、再チャレンジができるわけで、日本はそういった意味ではすごく弱いと思います。再チャレンジしにくかったり、能力を新たに人並みにつけるのが難しかったりする社会でもあると思うので、そういった観点からもいろいろできることはあるのではないかなという感じもします。</p>
委 員	<p>それに関連して、「5 地域を支え未来へつなぐひと」ですけども、先日、市民大清掃があって、私一生懸命働いたんですけど、なかなか地域づくりに関心を持たない人達が近所におられたりして、声をかけて欲しいわけではないですが、子どもと手をつないでぶらぶらと散歩をしているのを見ると、どうなのかなと思ったりします。そういう意味では、この振り返りの部分で、各団体の活動の周知や人材を育成するための研修等の情報発信が不十分ということが書いてありますが、いろんな形で地域に関心を持っていただきたいな、そういった具体的な施策がないのかなという気がしています。</p>
市 長	<p>その部分もすごく重要で、1期目、2期目の時に地域を回って、お話をいただいたときに、かなり共通にでてくるテーマがそれだったんです。自治会の役員が高齢化して、役員のなり手がなくて困っているという話がすごく出て、それが地域コミュニティの話に繋がっていく訳ですけど、今、小学校区とかで地域コミュニティの動きをしていくなかで、地域の中に若</p>

	<p>い人がいないかという、実はいるんですよ。ただ、単一自治会で見るとなかなか厳しいところもあったりして、小学校区ぐらいの単位で活動する中で、若い人たちも地域活動の中に入っていき繋がりが作れないかというのを今、市内の半分ぐらいの地域が、そんな形で参画をしてくれている形になっているんですけど、それは全市域に、少し時間がかかっても広げていかないといけないと思っています。そこで特徴的なのが、普通であれば都心部がバラバラで困ると、周辺部はしっかりと連携が取れているというところが多いんですけど、長崎の場合は、都心部のど真ん中がくちでがっちりコミュニティが出来上がっていて、そういうものはいらぬというところもあったりして、そこはすごく特殊なんですけれども、周辺部でいろいろやり始めているところでは、やってよかったと。これまで、困りごとを一つずつ潰していくというのが自治会のあり方で、子ども達も参加してビジョンを作って、こんなまちにしようとして共有して、何かに取り組むというのは、今までやったことがない部分で、それを是非、全市域でやっていきたいなと思っています。そのことは、さっきの当事者意識に繋がっていく部分があるので、その地域という部分はこれからまさしく大事な部分になると私も思います。</p>
<p>委員</p>	<p>今のことなんですが、私は小江原ニュータウンというところに住んでいますが、そういう意味では繋がりが弱いんですね。それから、大きな県営アパートと市営アパートと両方があるんですけども、市営アパートはきれいなんですよ。ごみもそんな落ちていないし。そういった意味では当事者意識がある。一方で県営アパートでは、規模が大きいということもあって、空き缶やらゴミやら結構あって、目についたら拾ったりするんですけど。そういった意味で、市全体でというよりは、ポイント、ポイントで働きかける場所を、少し大変かなと思いますが、ニュータウン的な地域の繋がりが無いようなところ限定して取り組まれてはどうかと思います。ここに書くかどうかは別として。</p>
<p>委員</p>	<p>「4 被爆の実相を継承し、平和の実現に貢献するひと」のところですが、「被爆体験の継承」「平和の発信」「平和の創造」の三つの柱のうち、「平和の創造」の部分が割と新しく、進んでないのかなと思うのですが、被爆者の方々もだんだんおられなくなってきているので、創造のところ、被爆とは別の次元で具体的な平和の創造のありかとか、やりかたをうたっていてもいいのかなと思います。被爆から離れると言っているのではなくて、別の次元で平和の実現に貢献することも必要だと思います。</p>

市長	その辺りは学校教育の方で、今の平和教育の状況とか分かりますか。
事務局 (教育委員会)	被爆者の方も高齢化されて、なかなか学校の方にも語り部として来ていただくことも難しい状況がありますが、学校といたしましては、やはり被爆体験をしっかり継承するという事は当然ですが、そこから一歩出てくださいね、やはりそのことについて自分はどう考えて、今後どう行動していけばいいかというところ、そこを今、重点的に子どもたちに指導するようにしています。被爆体験の継承につきましては、なかなか被爆者の方と触れ合いができないという場合はDVDを作ったり、Webによって、そういう話を聞いたりしているところです。
委員	今後の方向性の「原爆の悲惨さを将来にわたって伝え続けるため、語り継ぐ「ひと」を育成する」という点で、今、どういった取組みをされているのか教えていただけたらと思います。
事務局 (教育委員会)	家族交流証言者、今の被爆者の方と縁のある方々が被爆者の方から被爆体験を聞いて、それを子どもたちに語り部として伝えるという活動が広がっている状況でございます。それと、子ども達にしっかり過去を認識させることによって、その子どもたちが大人になったときに自らの言葉で周りの方に伝えていく、そういったことも狙っておりまして、今は被爆体験の継承を、子どもたちの心に響くような取組みになるよう工夫しているところです。
事務局 (教育委員会)	一昨年から長崎の小学生が広島にあって広島の学校の子供達と交流する取組みも進めています。広島の被爆の実相とか広島の平和学習を目の当たりにする中で、長崎の平和教育と広島の平和教育の両方を共有しながら、語り継ぐ人を育成する。昨年度はコロナでできなかったんですけども、Webでの交流をしたりとか、そういうことも続けて、地道な取組みではありますが、少しずつ語り継ぐ人、平和の創造、発信をする子ども達を育てていきたいと考えているところです。
市長	平和の部分については、この総合教育会議でもずいぶん議論をしてきて、平和教育のありかた、新しい、体験を聞くだけではない平和教育をやってみようということで、学校現場でもそういった動きになっているんですけども、それは総合教育会議の成果の一つかなと思うんですが、一方

	<p>で子どもたちの平和教育はそんな風に少し進化をしているんですが、その上の世代、親の世代というのが平和とどう関わっているのかというと、すごくそこが抜けていたりして、今、平和の文化を広げるという大きなテーマを、ここ何年か平和宣言のなかでも取り上げているんですけど、平和というのが、特別なもので特別な人達だけが活動するのではなくて、皆がそれを享受している訳だし、皆が当事者だということ、また、身近に平和の種というのがあるんだということを感じるというような動きにしないと、被爆者の人達が体験を話してくれて、被爆者に頼ってきた平和活動のあり方というのがもう出来なくなるときに伝える力というのがガクンと落ちてしまう。そんな長崎市にはならないというのが、今の私たちの世代の責任だと思っています。そういう意味では、平和の文化というのを、スポーツを通して平和を考え始めるというのもいいし、音楽でもいいし、演劇でもいいし、絵画でもいいし、いろんな場面で平和というものは特別なものではない、皆に関係するもので、長崎と広島だけが求めているものではないんだということをどう広げていくのかということはずごく大事なテーマなので、それこそPTAなんかでも、そういったテーマで、難しい、眉をひそめて考える平和というのではなくて、日常に何か考えることができるという平和というものを少し作っていく必要があるのではないかと、生涯教育の部分でもあるのではないかと思いますし、むしろ子どもたちは進んでいるんだけど、上の世代が少し欠けている感じ、抜けている感じがしますね。</p>
市 長	<p>いろんな視点を出していただきましたけれども、少し今日お話しいただいた分など含めて、素案づくりに取り掛かっていきたいと思いますがよろしいでしょうか。</p>
市 長	<p>もう一つの議題の(2)その他に入りますが、今日の議題以外のことで、何かご発言があったらお願いします。</p>
	<p>無いようでしたら、今後の総合教育会議の開催予定について、お知らせいたします。</p>
	<p>先程、教育大綱の策定のスケジュールでもお示しいたしましたが、次回の総合教育会議は、10月の中旬以降に教育大綱の素案について、ご協議いただく予定としています。そのときまでに事務局の方で、素案をまとめていただければと思います。具体的な日程については、改めて事務局を通じて調整をさせていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。</p>

	<p>では、これを持ちまして総合教育会議を終了したいと思います。 ありがとうございました。</p>
--	---

【12：00 閉会】